



一般社団法人 日本顕微鏡歯科学会

# 第20回学術大会・総会 歯科衛生士シンポジウム

大会長：寺内吉継

実行委員長：表茂稔

### 患者さんの心を掴む歯科衛生士のマイクロスコープ活用法

河野充子

きたみち歯科医院

デジタルデンティストリーを診療のメインとする当院では、高い治療精度を求めて、根管治療や形成などあらゆる治療にマイクロスコープを使用している。

特に cadcam を用いた修復物作製において、コンピュータに映し出される歯の拡大率がマイクロスコープで見る歯の拡大率と同程度であるため、マイクロスコープを使用しての形成は cadcam 治療と非常に相性が良いと考える。

治療後のメンテナンスにおいても cadcam 修復物のマージンをマイクロスコープで観察すると、その適合精度は驚くほど高く、プラークの付着を引き起こすような段差は見受けられない。

また当院では歯科衛生士がマイクロスコープを活用し、治療前の口腔環境をデジタルデンティストリーに適した環境にしていく事や、治療後のメンテナンスにおいて歯科医師の求めるレベルを共有・達成する事を可能にしている。

マイクロスコープを用いた口腔衛生指導は明らかに患者の行動変容に繋がっており、セルフケアの向上のみならず、その後の治療法選択においても、より良い治療法を選択される事を実感している。

しかしながら当院においても当初マイクロスコープを使用していたのは歯科医師のみで、歯科衛生士は従来からの " 手鏡で見てもらう " というスタイルで口腔内指導を行っていた。従来のスタイルでは伝えたい事が伝わらず、思うような行動変容に繋げることは難しかった。その結果、精密な治療をサポートできるだけの口腔環境を整える事は叶わず、処置においても歯科医師の求めるレベルには到達できず、非常に歯がゆい思いをしてきた。

今回は当院における歯科衛生士のマイクロスコープ活用法と、マイクロスコープ活用までの道のり、そしてマイクロスコープと iOS を併用した歯科衛生士のデジタルデンティストリーについてお伝えしたい。